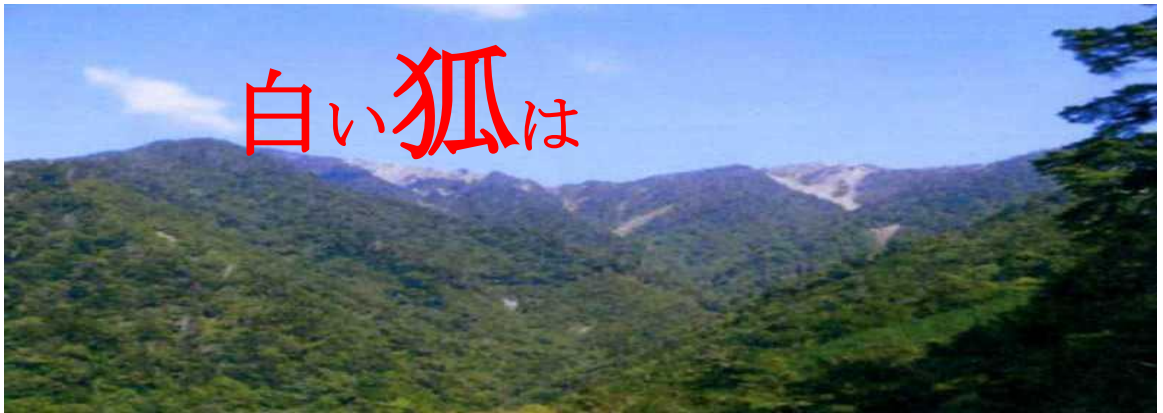
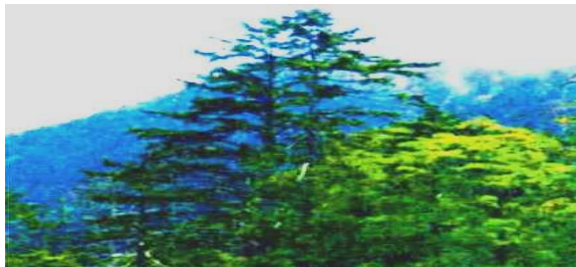


唐丹の民話・10話「片川地区」



神の御使い



平成19年3月

唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ

## 目 次

### —白い狐は神の御使い—

唐丹民話の再話著作にあたって	2
1. 狩人の吉さん	3
2. 白い狐との出会いが運のつき	3
3. ふりかかる災難	4
4. 怖い神のたたり	4

## 唐丹民話の再話著作にあたって

唐丹公民館の自主パソコンクラブ（設立：平成17年6月／名称：唐丹・愛ちゃんネットクラブ）では、パソコンによる文章作成を習得した証と民話を伝承する狙いを含めて民話の再話著作活動を実施しました。

文章作成の教材は、釜石民話の会（平成2年発足）の機関紙「釜石民話」を活用させていただきました。

この釜石民話の中から、唐丹に関り、かつ再話できるものを選び。その根底にあるものを変えないことを基本に「見やすく」、「読みやすく」、「分かりやすく」するために小見出しを付け、写真や絵図などを挿入。できるだけ、関連する歴史や実話を織り込みながら作成しました。

いつの日か、この冊子が誰かの目に留まり、唐丹にもこんな話があったのかと唐丹の「いにしえ」に想いをはせる一助になれば幸いと思います。

おわりに、この活用させていただいている民話は、釜石民話の会会員でありました唐丹町片岸の加藤ムツさんが採録（聴き取り）したものであり、第1集から第6集に掲載の民話の数は92編を数えます。

加藤ムツさんの民話を伝承したいという、この熱意と努力に敬意を表するとともに、故人となられました加藤ムツさんのご冥福をお祈り申し上げます。

なお、この物語の「白い狐は神の御使い」は、釜石民話第1集「白い狐」を再話著作したもので、その原文は次のとおりであります。

昭和のはじめの頃に、狩人の吉さんという人がいました。毎日毎日、狩の季節に野や山に行き狐、兎、鳥などをとって、生計を立てておりました。

ある日、山で、真っ白い毛の狐を見つけ、これは良い獲物と持っていた鉄砲で「ズドン」と一発撃ちましたが、弾は足にあたり、狐はビッコをひきながら逃げてしまいました。

それから間もなく、キジが木に止まっているのを見つけ、撃とうとしましたが、木立の枝がじゃまになって撃てませんでした。場所を変えて見ても撃てないので、仕方なく腰の鋸をとって木立をきり払ったところが、あやまって自分の膝にあたり、膝の皿を割ってしまったのです。

それからは、思うように猟もできなくなったので、神頼みと拝んでもらったところ、あの狐は神の使いであったのです。狐はビッコになってしまい、生涯、吉さんもビッコで終わったとのことです。

原文は、おしまい

## 白い狐は神の御使い

### 1. 狩人の吉さん

昭和のはじめ頃に、吉さんという狩人（かりゅうど）が、この村に住んでいました。

狩の季節になると野や山に行き、狐、兎、鳥などを獲って、暮らしを立てていました。



（吉さんの狩場の野山）

### 2. 白い狐との出会いが運のつき

ある日、山に行った吉さんは、真っ白い毛をした狐と出会いました。吉さんは、何年となく山歩きをしていますが、こんな白い狐を見るのは、初めてだと心がおどりました。

これはなんとしても、捕まえようと、わくわくしながら持っていた鉄砲をかまえ「ズドン」と一発撃ちました。



（撃たれて逃げる白い狐）

いつもと違い、腕のいい吉さんの狙いがはずれ、弾は狐の足にあたりました。

ところが、白い狐は、痛そうにビッコをひきながら山の奥のほうに逃げて行ってしまいました。

### 3. ふりかかる災難！

それからまた、獲物をさがしていた吉さんは、こんどは、木に止まっているキジを見つけました。

それを撃とうとしましたが、まわりのき木がじゃまになって、どうしても撃てません。

場所を変えて見てもだめです。

仕方なく腰の鋸をとって、木を切り倒しにかかりました。

ところが、切り倒した木が、なぜか、向きを変え吉さんの方に倒れてきました。

危ないと思い体をかわしましたが、運悪くその木が跳ねて足にあたり、膝の皿が割れる大怪我をしました。

吉さんは、大怪我をするし、キジは逃がしてしまうし、踏んだり蹴つたりの最悪の一日になりました。



(キジを撃ち損ねた林)

### 4. 怖い神のたたり

吉さんは、その怪我がもとで、思うように猟もできなくなりました。もしかして、この怪我のもとは、あの白い狐とかかわりがあるのではと気にしていました。



(撃たれた足を癒す白い狐)

ある日、苦しいときの神頼みと、思い切って巫女さんに拜んでもらいました。

その巫女さんが、言いました。あの白い狐は、「神の御使い」だと……。

吉さんは、狐を撃ちそんじてビッコにし、そのたたりで自分も一生ビッコで終わってしまいました。

物語は、おしまい

◎釜石の民話・第1集：白い狐の話

○話し手：不詳（民話の地区は、片川とした）

○聴き手：加藤ムツさん／片岸

●再話著者：留畑孝子／片川地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●写真撮影者：同上

●校正指導者：新沼 裕／本郷地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●再話完成：平成19年3月